

整備に向けて（基本計画P.30～31）

整備費

防災面や安全性に配慮し、野口遵記念館の基本理念を実現する性能を確保しながら、できる限り費用を抑えることができるように創意工夫に努めます。

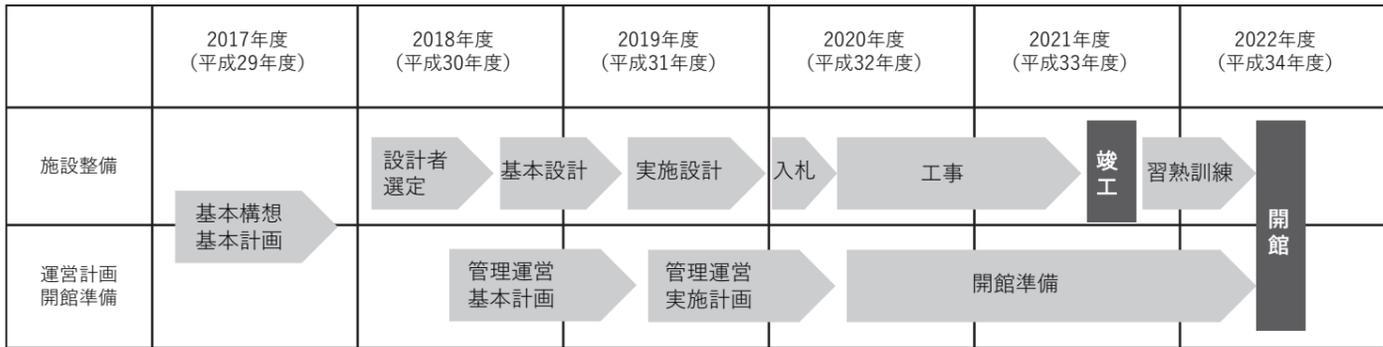
整備手法

ホール施設の整備については、様々な整備手法による実例がありますが、今回の整備においては、目標とするスケジュールの実現可能性から、従来方式（*）を進めることとします。

（*）地方自治体が事業主となり、「設計」「建設」「運営」の各段階において、個別に発注が行われる手法

整備スケジュール（基本計画P.32）

旭化成株式会社の創業100周年2022年5月（平成34年）、延岡市制90周年2023年2月（平成35年）を見据え、2022年中（平成34年）の開館を目指して整備を進めます。



管理運営の基本的な考え方（基本構想P.14／基本計画P.29・32）

これまで野口記念館は、延岡総合文化センターと一体のものとして、同一の指定管理者がその運営を担ってきました。延岡市の文化振興施策を展開するにあたり、規模の異なる複数のホール施設を一元的に管理運営することが望ましいという視点から、今後とも、延岡総合文化センターと野口遵記念館は一体的管理運営を行っていくものとします。

一体運営による文化施策の展開 = 延岡総合文化センター（1,312席/291席）+ 野口遵記念館（600～700席程度）

管理運営計画について

基本構想・基本計画を踏まえ、また、設計内容を踏まえながら、実施する具体的な管理運営方法、管理運営体制について検討する必要があります。基本的な指針を整理する「管理運営基本計画」、それをより具現化し詳細を整理する「管理運営実施計画」の2段階での実施を検討します。

▶次年度以降の管理運営計画にて検討します

※表記について

概要版での表記	正式名称
野口記念館	延岡市公会堂野口記念館
野口遵記念館	新たに整備する施設
基本構想	野口遵記念館建設基本構想
基本計画	野口遵記念館建設基本計画

野口遵記念館建設基本構想・基本計画【概要版】

発行：延岡市教育委員会
〒882-0822
宮崎県延岡市南町2丁目1番地8
TEL：0982-22-7047
FAX：0982-34-6438
<http://www.city.nobeoka.miyazaki.jp/>

野口遵記念館建設 基本構想・基本計画（概要版） 平成30年3月 延岡市教育委員会

野口記念館は1955年（昭和30年）に旭化成工業株式会社により建設され、市制20周年及び同社の創業30周年を記念して、当時としては、最新の近代的建造物として、延岡市に寄贈された施設です。しかしながら、築63年を経過し、躯体や設備の老朽化が顕著となってきており、施設の抜本的な対策が急務となってしまいました。

現在の旭化成株式会社の創業者である野口遵（のぐち したがう）翁の名前を冠として、長年、延岡市の文化振興を担い、延岡市と旭化成株式会社の共存共栄の発展を象徴する施設として、市民に親しまれてきた施設であり、時代に即した文化施設として存続させ、使い続けたいという市民の声を受け、2017年（平成29年）に旭化成株式会社から寄附を受け、再整備を行うことになりました。この再整備により、本市における文化振興の象徴的施設として新たな一步を踏み出すことが期待されます。

再整備にあたり施設名称を「野口遵記念館」に改称します。

野口記念館再整備の必要性（基本構想P.1～7／基本計画P.15）

基本構想・基本計画の位置づけ

「基本構想・基本計画」は、専門者会議による有識者のご意見、市民懇談会やパブリックコメントによる市民からのご意見を参考に、再整備の目的と方針を具体的に整理するものです。今後は「基本計画」に沿って整備が進められます。

基本構想	再整備の目的を整理し、新施設の役割・基本理念、方針を示す
基本計画	役割・基本理念を実現するための活用の方針、施設構成・規模などの施設計画の方向性を示す

延岡市の文化環境の現状と課題

【上位計画および関連計画】	【ホール施設の整備状況】
・第6次延岡市長期総合計画（H28年策定） ・延岡市中心市街地活性化基本計画（H12年） ・延岡市公共施設維持管理計画（H28年）	延岡総合文化センター 固定席1,312席/291席
	カルチャープラザのべおか 定員400人/200人
	▶市民文化活動の促進と郷土の先賢の顕彰 ▶公共・教養文化施設の回遊空間づくり ▶施設の長寿命化、効率的な維持管理

現代社会における文化政策のあり方

- ・文化芸術基本法（H29年） ▶文化芸術の振興にとどまらず、他の関連分野（観光、まちづくり、教育等）の施策を取り込む
- ・劇場音楽堂等の活性化に関する法律（H24年） ▶劇場や音楽堂は公共財であり「新しい広場」「世界への窓」である
- ・未来みやざき創造プラン（H27年改定）・みやざき文化振興ビジョン（H29年改定）

野口記念館の状況

2016年（平成28年度）の利用率は36%であり、利用団体別では市民利用が約半数を占めています。
施設や設備の経年劣化に加え、楽屋不足やバリアフリー対応の遅れ等、機能や性能の低下も大きな課題です。



野口遵記念館の役割・基本理念（基本構想P.8～9／基本計画P.16）

上位計画・関連計画をふまえ、新たな野口遵記念館は、市民のまちへの愛着や誇り（シビックプライド）を醸成し、市民のまちづくりに対する参画意欲を高め、成熟した地域社会の形成に寄与する施設として再整備します。また、活力ある地域を築くために、市外からの誘客にも繋がる、地域の活性化に寄与する施設を目指します。観光、産業、教育、福祉といった他の政策分野との連携により集客力を高め、将来にわたって、延岡市のまちの魅力を創造、発信する貴重な財産として長く親しまれる施設とします。

- ① まちへの愛着と誇りを醸成します
野口記念館の歴史を引き継ぎ、歴史文化ゾーンの一翼を担う文化施設として、活動や交流を生み出す場とします
- ② 全ての市民の主体的、自主的な文化芸術活動を支えます
全ての市民の主体的、自主的な文化活動を促進する場の一つとして、地域とともに成長していく施設を目指します
- ③ 次代を担う子どもたちを育み、活力ある地域社会を築きます
次代を担う子ども世代に対して、文化芸術に親しむきっかけをつくり、豊かな心を育む環境をつくります。また、様々な地域や世代の交流を促進するなど、生き生きとした活力ある地域社会の形成に寄与します

機能と活用の方向性 (基本構想P.10～11/基本計画P.17～19)

求められる機能

- ①市民の文化活動を支え、文化芸術等に触れる機会を提供する
- ②交流を促進し、賑わいを生み出す
- ③野口遵翁を顕彰し、工都としての延岡の歴史を伝える

機能と活用の方向性と活用の体系

市民の文化活動を支え、文化芸術等に触れる機会を提供する

延岡総合文化センターとの連携により、以下の活動を支援します。

(ア)施設提供

地域に根ざした活動や、市民の文化活動に対し、発表の場を提供します。また、文化活動にとどまらず、地域活性化に繋がる事業等に、柔軟に場所を提供します。

(イ)鑑賞・普及

延岡総合文化センターにない中ホール機能として、その性格にあう優れた文化芸術の鑑賞機会が提供できるようにします。このことにより、より多くの人に文化芸術への興味・関心を喚起するとともに、市民の文化活動の質や技術の向上が図られるよう、文化芸術の普及・振興に寄与します。

交流を促進し、賑わいを生み出す

歴史文化ゾーンの一翼を担う施設として、市民の憩いの場となり、来訪者に開かれた施設として、世代や活動分野を超えた様々な交流を促進し、賑わいを生み出します。

(ウ)育成・交流

市民の文化芸術等の活動の芽を育み、特に、次代を担う子どもたちの豊かな心を育む場とします。また、人々が気軽に集い交流できる場を提供するとともに、市外からの誘客を促し、観光との連携や地域の賑わいの創出に寄与する施設とします。

(エ)連携・情報

再整備される内藤記念館やカルチャープラザのべおかななどの既存施設、観光資源である延岡城跡、また周辺で行われる各種イベント等の地域資源と連携できる施設を目指します。

また、市内の文化芸術や交流活動はもちろん、観光、産業、教育、福祉といった他の分野とも連携し、集客施設としての役割を活かし、様々な情報の発信が出来るようにします。

野口遵翁を顕彰し、工都としての延岡の歴史を伝える

子どもたちに、延岡市の工都黎明期の姿を伝え、地域のアイデンティティを育むとともに、来訪者に対してのインフォメーションを提供し、他の産業遺産や観光資源等との周遊ルート形成にも寄与します。

(オ)顕彰

旭化成株式会社の創業者である野口遵翁について、その人物や、功績を顕彰します。延岡市民だけでなく、市外来訪者に対しても、誰もが知る存在となるよう、グラフィックパネルやデジタルコンテンツ等を用いた展示を検討します。

(カ)展示

「工都のべおか」と言われてきた延岡市の工都黎明期の姿を、グラフィックパネルやデジタルコンテンツ等の常設展示により伝えていきます。また、他の産業遺産や観光資源等への周遊につながるインフォメーションを検討します。

施設計画 (基本構想P.12～13/基本計画P.20～28)

立地・整備場所

野口記念館は延岡城跡(城山公園)、市庁舎に隣接した位置にあります。近隣では、歴史民俗博物館として、内藤記念館の再整備が進められていることと合わせ、歴史文化ゾーンを形成する魅力的なエリアとして期待されています。

新施設も、野口記念館がその利便性の良い立地等により、親しまれてきたことから、同位置での再整備とします。



【施設計画における留意点】

- ・周辺環境との調和
- ・建物コンセプト (施設使用木材は、県産材を推奨)
- ・ユニバーサルデザイン
- ・環境負荷への配慮
- ・防災・減災
- ・将来的な維持管理費への配慮
- ・駐車場・駐輪場 など

配置計画

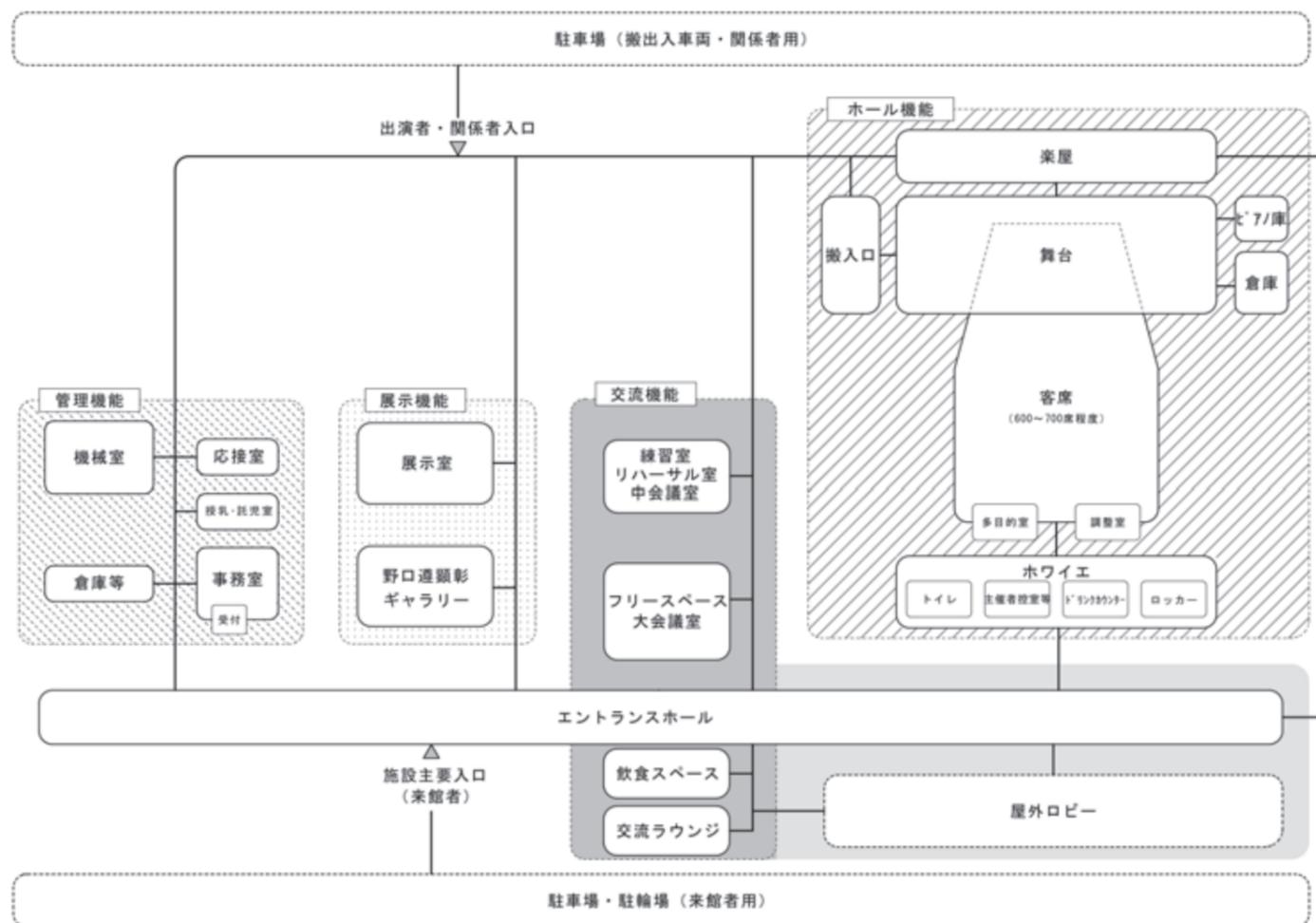
各諸室の配置は、周辺環境や近隣住環境に対して、十分に配慮した計画とします。「観客・来館者」「出演者・スタッフ・関係者」及び「楽器・大道具等の搬出入」の3つの動線が基本的に独立し、相互に干渉しあうことのないように、機能的に最も適した計画とします。

◆敷地条件

延岡市景観条例により、高さ制限があります。また、埋蔵文化財等に配慮し、地下を深く計画することはしません。

◆駐車場・駐輪場の確保

建物配置に考慮し、適切な位置に確保します。また、来館者用の駐車場・駐輪場についても、市役所来客者駐車場や周辺駐車場と合わせて、可能な限り台数を確保し、利用しやすい施設となるように検討していきます。



施設構成

ホール機能	舞台・客席・ホワイエ・楽屋等
展示機能	野口遵翁顕彰ギャラリー・展示室等
交流機能	フリースペース・練習室/リハーサル室 交流ラウンジ・飲食スペース等
管理機能	事務諸室・受付・倉庫等
その他	エントランスホール・授乳室・託児室等
合計	4,200㎡程度

施設機能と主たる機能諸室

ホール機能

- ◆舞台、客席、ホワイエ、楽屋など
- ・音楽重心型の多目的ホール (舞台芸術にも対応)
- ・客席数は600～700席程度
- ・市民利用を主とし、プロによる巡回公演等にも対応できるよう計画
- ・市民のハレの場として、ふさわしい雰囲気と音響効果を持つデザイン

展示機能

- ◆野口遵翁顕彰ギャラリー
- ・野口遵翁について、その人物や功績を顕彰する
- ・来訪者に対して目に留まるオープンスペース
- ◆展示室
- ・「旭化成株式会社と延岡の関わり」「工都のべおか」と言われてきた本市工都黎明期の姿等をテーマにグラフィックパネルやデジタルコンテンツ等を用いた常設展示
- ・他の産業遺産や観光施設に繋がるインフォメーションの提供

交流機能

- ◆フリースペース・練習室・リハーサル室
- ・各種会議やミニコンサート等にフレキシブルに対応
- ・気軽に使える音楽・ダンス等の練習室
- ・ホールのリハーサル室や控室としても利用できる
- ・自由に休憩し滞在できるスペース
- ◆交流ラウンジ・屋外ロビー・飲食スペース等

管理機能

- ◆事務室・受付カウンター
- ・職員の執務室等
- ◆倉庫・機械室など

その他

- ◆エントランスホール
- ◆授乳室・託児室など